

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270101052		
法人名	(株) 角八雲園		
事業所名	グループホームウェル・アイ		
所在地	島根県松江市山代町421-1		
自己評価作成日	令和2年1月30日	評価結果市町村受理日	令和2年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [2/index.php?action\\_kouhyou\\_detail\\_022\\_kani=true&JigyosyoCd=32](http://2/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=32)

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	令和2年2月25日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

居室、廊下などは広めで車椅子や歩行器の方でもゆったり安全に行動できます。補助具を使用しながらでも安心して自立した暮らしが出来る様支援しています。基本的な一日の流れはありますが、ご利用者様一人ひとりの思いを大切に自由な生活が出来る様支援しています。認知症の進行緩和に向けた取り組みとして、日々一緒に家事をしたりゲームや運動を楽しんでいただいています。およそ月一回の歌の会、習字の会はボランティアによるものでご利用者は特に楽しみにされています。年間を通じて毎月、お花見や七夕、敬老会などの季節行事を計画し、ご利用者様と職員と一緒に準備を進めます。これは、生活のメリハリをつけるうえでも季節感を味わう上でも大変喜ばれております。このようにGHウェル・アイでは家庭的な雰囲気を大切にしながら、喜びをもって楽しく暮らしていただくことを大切にしております。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ゆっくりと穏やかにその人らしく、今迄の人間関係や生活環境を崩さない様に利用者の望む暮らしの支援に努めている。開設当初から地域との関わりを大切に認知症予防教室の開催や福祉専門学校の実習生の受け入れ等を通じて開かれた事業所づくりを行い、近隣の住民から助けを求める電話等もあり地域の大切な場ともなっている。職員は内部・外部研修に参加し、日々実践の発表をしたり、学んだケアを質の向上につなげ、老いは自然摂理である事を忘れない様に、人生の最期を迎える利用者の尊厳を守りながら定住の場を提供し、日々楽しく暮らせるように心して支援している。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input checked="" type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input checked="" type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input checked="" type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input checked="" type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎年度末理念の見直しを行っており、地域との係わりの中でご利用者一人ひとりが尊厳を保持し安心して生活できるよう、管理者も職員も意識して実践している。	職員間で理念の振り返りを行い、一人ひとりの暮らしのペースや意見を尊重しながら規則正しく健康的な生活が送れる様に支援にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域防災活動のメンバーとしての活動や、公民館の認知症予防教室への協力をしている。当ホームで行う歌の会やワンデーサロン等のご参加を地域へも呼びかけ、ご利用者も一緒に日常的に交流している。	日頃から地域の人と関わる機会を持ち、健康体操、習字、腹話術等のボランティア、安来節保存会の来訪などあり日常的に交流している。公民館の依頼を受け他所の医療従事者と共に寸劇を行った。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉の専門学校生の職場実習を受け入れ、認知症予防教室『ワンデーサロン』の開催、機関紙『陽だまり』の発行や日頃の交流を通じて、認知症理解や支援方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価結果やサービス状況、拘束ゼロへの取り組みについての検討会の報告を行うと共に、各委員からの忌憚のない意見をいただき、日々のサービスに活かしている。	多彩な内容で開催し、参加者が自由に意見を述べ話し合っている。ヒヤリハットの事例から助言を貰ったり活動の評価を得てサービスの向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことは市の担当者に聞き相談して問題や課題の解決を図っている。運営推進会議に出席された方にはサービスの実情をお伝えして意見をいただいている。	運営推進会議で事業所の実情や取り組みを伝えている。わからないことは相談し助言を得て取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員はマニュアルを周知し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。3か月に1回、拘束ゼロへの取り組みについて職員全員で検討を行っており、身体拘束に繋がりがかねない不適切ケアについても話し合っている。	身体拘束の動画を見て職員間で意見を出し合い不適切と思われる支援について自己発表する機会を設けている。事業所外での研修にも参加して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現在虐待はないが、研修を通して、身体的虐待はもとより心理的虐待への理解をさらに深めたい。3か月ごとの不適切ケアに関する話し合いも虐待防止の観点からも役立つている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要なケースがあれば、管理者が中心となって各方面と協議し支援につなげる方針だが今のところ実例が無い。職員には、研修会参加等学ぶ機会が得られるよう配慮したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には利用者や家族に丁寧に説明して不安や疑問を解消し、理解納得を図っている。制度の改正等は都度文書で説明し理解を得ている。退所時及び利用中に生じた不安や疑問にも丁寧に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族代表が毎回運営推進会議へ出席し忌憚ない意見が出されており、運営に反映している。普段から日常的に口頭で意見をいただいているが意見箱への投入が無いので工夫をしたい。	面会時や運営推進会議、敬老会、家族会等の時はお茶を飲みながら気軽に話し合える様にし、出された意見を運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者は月一回のリーダー会で意見交換をしている。管理者は日ごろから、職員の意見や要望、提案を聞いており、この会で検討する等して運営に反映させている。	日頃から意見、要望を言いやすい環境をつくり、管理者は利用者に関する事や職員の体調を気にかけて働きやすい職場づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	事業者は給与水準ややりがい等職員が向上心をもって就業できるようキャリアパスを整備している。休憩室の完備、希望休の取得等働きやすさにも配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要に応じたホーム内研修の実施。各職員の力量に応じた外部研修の参加を推進し、復命研修を通じて全職員への周知する。新人にはオリエンテーションをはじめOJTによるトレーニング、3か月アンケートを実施し指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小規模ケア連絡会、グループホーム部会等へ参加し同業者との情報交換やネットワーク作りを行っている。また、外部研修の機会に交流や情報交換をし、サービスの質の向上につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前から、面接や情報提供書により、不安や要望を把握している。利用初期は担当職員が一对一で寄り添い、安心して過ごせるよう配慮している。気づきは全職員で共有し信頼関係の構築に役立っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者が中心となって、家族の話聞き、不安や迷い、困っていることを受容している。要望や情報は速やかにケアにつなげており、本人様の様子は密に伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用時の相談に応じて支援内容を具体的に説明し、時には行政、包括支援センターや他事業所の協力を求め、適切なサービスの選択を支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事を一緒に行ったり、相談し合って行事をすすめたり、利用者と職員は常に協同して生活している。若い職員は、昔の暮らしぶりなど利用者から学ぶことも多い。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用当初から受診はご家族の役割としている。面会時や電話、請求書のお便り欄を利用してご本人の要望を代弁したり、対応を相談している。ミニ通信を発行し情報提供や行事への参加の呼び掛けを行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の訪問を、職員も一緒に歓迎し茶を入れてもてなし関係性を保つための取り持ちを行っている。	高齢化でだんだん知人、友人の訪問が少なくなっているが、利用者の希望を出来るだけ叶えられる様に関係継続に努めている。親族、孫の来訪が多く一緒に実家や墓参りに出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりが孤立せず良い関係が築けるように、利用者同士の相性を考えて、食事やレクの席順を決めている。場合によっては職員が、関係性を保つための橋渡し役をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られたり入院の際には管理者が面会やお見舞いに行き、退所後も家族からの相談にのったりアドバイスを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、日頃の会話の中で希望や意向を把握している。言葉にされない方の場合は、表情や態度から思いや意向をくみ取る努力をしている。それも難しい場合は、ケア会議等で本人本位に検討している。	日々の関わりの中で利用者の笑顔が見られた時の様子から思いをくみとり、職員間で伝え合い利用者本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	新規利用時、既担当CMから情報提供を受けただけでなく、家族や関係者から生活歴や暮らし方等についての情報を得ている。入居後に会話の中で得られるご本人からの情報も大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃のかかわりの中で知り得た情報はケア会議や送りノートにより全員が共有する。申し送りや職員伝達によってリアルタイムでの情報共有を大切にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見を踏まえて全職員でカンファレンスを行っている。それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成し、モニタリングは毎月のケア会議で行われている。	介護計画担当者を中心にカンファレンスを開き、利用者、家族、関係者の意見、要望を取り入れ現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は、毎日の暮らしぶりやつぶやき、健康状態等について、職員の気づきや工夫を個別に具体的に記入している。職員はいつでもこれを見て情報を共有でき、ケアや計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	どうしても都合のつかない家族に代わって受診に付き添ったり、買い物などの外出他その時々ニーズに合わせて柔軟に、対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	歌の会、習字の会、フォークダンスの集い等ボランティアを受け入れたり、商業施設まで外出して買い物や食事を楽しんでもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	多くの利用者が嘱託医をかかりつけ医に希望し、24時間の対応が得られている。それ以外を希望する場合も、病状悪化時は上申してアドバイスをもらえるなど適切な医療が受けられるよう支援している。	今迄のかかりつけ医との関係を継続し訪問診療をしてもらっている。緊急時にも必要な情報を提供して適切な医療を受ける事が出来る様に医療機関と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護を利用しており、介護職員は日々の気づきや情報を提供したり相談したりして、個々の利用者が適切な受診や看護が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供を行い、適切な治療が受けられるよう配慮し、病状説明やカンファレンスに出席して早期退院への協力を行っている。退院時には医療関係者と連携して支援計画を見直している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所で出来ることなどは入所時から十分に説明している。現状に合わせて話し合いながら方向を決定し方針は共有している	入居時に本人、家族と人生の最終段階を何処で過ごしたいかも含めて話し合い、看取りケアの方針を共有し事業所で出来る最大限の努力をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	防災訓練の中で心肺蘇生や初期対応の訓練を定期的に行っている。急変時の対応についてもマニュアルを整備しホーム内研修を行って万が一に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月『防災の日』を設定し利用者と防災について話しあい、避難訓練を繰り返し実施している。近隣に協力員体制があり、年2回合同防災訓練を行い受け入れについても訓練している。地域の協議会との連携もある。	土砂災害想定の手合訓練、防災協力委員の連絡網訓練、救急蘇生AEDの使い方等を地域の人と行っている。法人、事業所でお互いに協力出来る体制を整えて普段から避難出来る方法を身に付けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周辺症状が強くて出ている時に、安全や保清の観点から行動の制止や強制をさせていた だく事があり、職員は心を痛めているが、概ね丁寧な言葉かけを行い一人ひとりを尊重しプライバシーを大事にしている。	一人ひとりの生活歴を尊重し人生の先輩として敬い、居室に入る時や入浴介助、トイレ誘導等の言葉かけに特に気を付けて対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は利用者の希望や思いを引き出せるよう言葉や態度に工夫している。意思表示困難者については、表情や態度から察し、何をどうしたいか、何が欲しいか、複数の選択肢から自己決定を促す工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	休養、制作物やトレーニングなどの希望表出を促し対応しており、日課の流れよりも個々のペース・体調に合わせ、希望に沿った時間を過ごしていただける様支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の服を自分で選んでもらったり、不十分な所や乱れをさりげなく直したり「素敵ですね」「いい色ですね」等の称賛やアドバイスを行い意欲を失われないよう配慮している。マニキュアはとても喜ばれている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に食事し、準備も片付けも個の力に応じて協働して行う。季節感重視の献立を、家庭用食器で提供しており利用者は毎回楽しみにしている。誕生日の希望メニューや行事食は特に楽しみとなっている。	旬の食材を使い誕生日献立や行事食も取り入れ彩も良くバランスのとれた食事を提供している。台所はオープンカウンターで香りや材料を切る音等が感じられる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事はバランスよく、個々の状態に合わせた形状で提供している。お茶事の時間をつくったり種々の飲み物を用意してこまめに促したりして水分確保の工夫もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアを徹底している。全利用者、全介助もしくは声掛け、磨き直しを行い清家保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	つかまり立ちが出来る方には出来るだけトイレでの排泄を支援している。トイレ使用が困難な方でもPトイレを使用したり、紙下着の種類を検討する等一人ひとりに合わせた排泄支援を行っている。	排泄の間隔に合わせた声掛けや一人ひとりのパットの種類等検討し自立に向けた支援をしている。病状に合わせてベッドからPトイレの移乗時の体位にも気を配った排泄支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を十分取り入れた食事を提供し、日課に体操や運動を取り入れ、なるべく自然排便できるよう配慮している。排便チェックを行い排せつのタイミングを逃さない支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴をおっくうがられる方、強く拒否される方もあるので、声掛けに工夫して促したり入浴剤やヨモギ湯、ゆず湯等楽しんでいただいたりしている。時には風呂で一緒に歌を歌ったりすることもある。	出来るだけ利用者の希望に沿った入浴になる様に支援している。気が向かない利用者には原因を探り体調を考慮しながらさっぱりする事を体感して貰い入浴が楽しめる様に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個室なので好きな時間に休息したり邪魔されることなく安心して眠れる環境であるが、夜間など一人をさみしがられることもあるので、時には一緒に過ごすこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の服薬状況を周知しており、用法や留意点、副作用についても把握している。利用者の症状の変化があれば医師に伝達し処方方を再検討してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意分野で、可能な手伝いをお願いし、感謝の言葉を返すようにしている。飲み物の嗜好や楽しみな事を把握し活動に取り入れている。ボランティア来訪や外出等は良い気分転換になっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	短時間でも、戸外へ出る機会を作っているが外出の希望はあまりない。希望に応じたドライブ等は大変喜ばれている。本人の希望を家族に伝え、家に帰られることもある。	季節や気候に合わせて利用者の希望に沿った支援をしている。ドライブや大型スーパーに出掛け洋服を見たり、フードコートで好きな物を食べたりしている。車椅子の利用者は介護タクシーを利用し家族の協力で戸外へ出かけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金を所持している方は少ないが、立て替えてでも時々買い物支援等が出来ると思うと考えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在手紙を書かれる方はいない。電話はいつでも自由に掛けられるし、頼まれればダイヤルを回したり取り次いだりしている。来文書は手渡しして読んでもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには季節の花や利用者の作品を飾らせてもらっている。食堂や居室、浴室やトイレ等掃除を徹底し清潔を心掛けている。懐かしい流行歌を流す等居心地よく暮らせる工夫をしている。	お雛様の折り紙等季節を感じられる作品や行事の写真を飾り楽しめるように配慮している。高台の畳の間もあり雑誌を読んだりテレビを見たりして一人ひとりのペースで過ごす事が出来る様に工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人でソファでくつろいだりテラスで日光浴を楽しんだり、他者と一緒にお茶を飲んだりしていただいているがご利用者だけではコミュニケーションがとりにくい事も多く、職員も加わる事が多い。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族は本人に合わせて家具や時計等持ち込まれており、職員は壁を飾るなど居心地良く暮らす工夫をしている。本人の混乱を防ぐために壁にメッセージを張ったり、便を隠すためのチェストを置いたりしている。	家で使っていた馴染みの物を持参し手作りの作品が置かれている。自分の好みに合わせたテーブルセットを置いて生活を楽しんでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の利用者の、できる力やわかる力を把握して、居室への道順やトイレ表示を貼る等不安や迷いの軽減のために工夫をしている。		